

# 衣笠

第499号  
March.2026  
2026年3月1日発行



わたしの兄弟である  
この最も小さい者の一人にしたのは  
わたしにしてくれたことなのである

マタイによる福音書 25章40節



社会福祉法人  
日本医療伝道会  
衣笠病院グループ  
Japan Medical Mission  
<https://www.kinugasa.or.jp>



## 評議員就任のご挨拶 「貴院とのご縁を 大切に精進してまいります」

公立大学法人 神奈川県立保健福祉大学 副学長 金井 信高

この度評議員を拝命した金井信高と申します。横須賀市平成町の神奈川県立保健福祉大学に勤務しています。

県立大学の初代学長阿部志郎先生のもと、初代副学長故室谷千英先生は、福祉職としてキャリアをスタートされ、県内初の女性副知事に就任。その後日本医療伝道会理事長を担われました。私は幾度となくお仕えし、厳しくも優しいご指導を賜ってまいりました。貴院と県立大学が固い縁で結ばれ、私もそのご縁につながる事ができたことを心から光栄に思います。

1月6日の衣笠病院火災66年の罹災者追悼記念式に参列。讃美歌496番「うるわしの白百合」を歌いました。2020年のNHKの朝ドラ「エール」の「長崎の鐘」放送週に、戦後の廃墟の中で「復活」への願いを込めて薬師丸ひろ子さんが熱唱した名曲です。中学高校の母校玉川学園創立者故小原罔芳先生ご夫妻の愛された讃美歌で、私は常に口ずさんでまいりました。

玉川学園の正門横の石碑に刻まれている「人生の最も苦しい いやな 辛い 損な場面を真っ先きに微笑みを以って担当せよ」という言葉を大事にしています。至らない私は、無理難題や理不尽に立ち往生した時に無意識に微笑んでしまい、相手の怒りの火に油を注ぐ結果を招くこともあります。長所より短所の目立つ修行中の私です。ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

### プロフィール

1982年 早稲田大学法学部卒業・神奈川県庁入庁  
1992～1994年 在中華人民共和国日本国大使館（北京）広報文化部2等書記官  
2006～2007年 （社）神奈川県医師会派遣（神奈川県救急医療中央情報センター副センター長）  
2010年 神奈川県健康危機管理課長  
2012年 神奈川県災害対策課長  
2018年 神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア推進統括官  
2020年 神奈川県立保健福祉大学副学長

### その他経歴

横浜YMCA国際事業委員（2003年～）  
かながわ外国人すまいサポートセンター理事（2005年～）  
全国移動サービスネットワーク理事（2009年～）  
ろばと野草の会（精神障害者支援NPO）副理事長（2024年～）

- 2 | 2026年度の衣笠病院グループ  
グループ本部長 都甲 真二
- 3 | 在宅医療の現場から 第4回  
衣笠病院長瀬ケアセンター訪問介護事業所 管理者 九鬼 貴紀  
地域包括支援センターって？ 第4回  
久里浜地域包括支援センター
- 4 | かながわ感動介護大賞「優秀賞」を受賞いたしました  
衣笠ホーム 生活相談課  
衣笠ホーム永眠者記念会に寄せて  
衣笠ホーム ホーム長 柳井 芳明
- 5 | 衣笠病院グループ歴史館 第8回  
衣笠病院の源流（その8）  
日本医療伝道会 監事 阿部 誠  
今月の聖句  
日本同盟基督教団 横須賀中央教会 牧師 荒井 隆則
- 6 | 阿部志郎先生 百寿おめでとうございます!!  
衣笠病院 名誉病院長 南 信明  
証言者のつらなり  
～ 衣笠病院火災から66年を迎えて～  
チャプレン室長 大野 高志
- 7 | フレイル予防のための栄養  
衣笠病院 管理栄養士 西村 早瑛  
管理栄養士がおすすめする  
牛乳茶碗蒸し  
衣笠病院 管理栄養士 小島 美香
- 8 | 介護用品・福祉用具 どうやって利用？ 第4回  
クリスマス報告  
編集後記



衣笠ホームの河津桜が咲きました。

## 2026年度の衣笠病院グループ

グループ本部長 都甲 真二

これから2040年に向けて、横須賀市は「課題先進地」として医療・介護の需要とサービス提供の両面で大きな困難に直面します。様々な原因によって医療・介護の複合ニーズを持つ85歳以上の人口は、2025年の約2万人から2035年には約3万人へ1.5倍に増え、2040年頃まで高止まると推計されています。要介護になってからの対応だけでなく、疾病の予防や早期発見・重症化防止、重介護化防止などで健康寿命を伸ばすことも重要です。

一方で医療・介護の担い手不足が深刻化します。2025～2040年の15年で20～59歳の人口が32%、約5.5万人も減少します。全国的に、既に入学者が減っている介護福祉士・リハビリ専門職に続いて、看護師養成校も定員割れが常態化しつつあります。その中で横須賀は転入者より転出者が多い、とくに若い世代、若年女性の流出が深刻な市ですから県内随一の悪条件にあり、その変化率は宮崎県の都城市や島根県の出雲市など地方の10万人クラス都市圏よりも厳しい状況です。

衣笠病院グループは機能的・地理的に「三浦半島の真ん中」にあり、他ができない役割を担っています。私たちは、この厳しい変化を乗り越えるため「事業方針」に基づいた取り組みを進めていきます。

### 【衣笠病院グループの事業方針】

#### ■地域包括ケアシステムのハブ(軸)となる

- ▶ 総合診療、サブアキュート(高齢者救急)・ポストアキュート入院、在宅診療・介護、リハビリを充実
- ▶ 外来リハ・通所リハ・看多機・定期巡回やホスピスハウスなど不足する在宅支援機能を整備
- ▶ 地域全体最適の視点で病医院・介護事業者と連携

#### ■優れた専門職集団を築く

- ▶ 総合診療医、看護・リハビリ・介護職の採用を強化
- ▶ 医療・介護専門職の育成・成長を促す
- ▶ 一人一人が伸びる仕組み、働きやすい仕組みを整える

#### ■利用者の療養環境、職員の働く環境、DX環境を整備する

- ▶ 衣笠地区各施設・衣笠ホームのリフォーム
- ▶ DX・ICT・AI等による質の向上や効率化

2026年度は、不足する機能の整備や施設のリフォーム計画作りを本格化させ、給与制度の見直しやAIツールの導入なども予定しています。最大の課題「人」については、自ら医療・介護専門職を域外から集め、育成・定着させる力が求められます。衣笠病院グループだけでの対応には限界がありますので、行政との協力深化や他の医療機関・介護事業者との協業も進めていきます。

新年度も皆さまのご支援ご協力を、宜しくお願い申し上げます。

## 在宅医療の現場から 4

### 訪問介護について

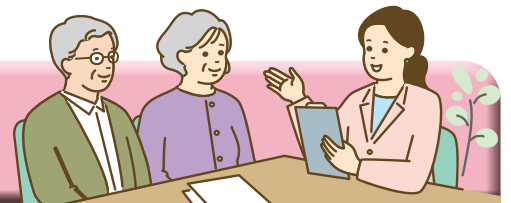
衣笠病院院長瀬ケアセンター訪問介護事業所 管理者 九鬼 貴紀

訪問介護は、住み慣れた自宅で安心して生活を続けるために、介護福祉士等の資格を持った訪問介護員（ヘルパー）がご自宅を訪問し、日常生活全般を支えるサービスです。主なサービス内容は、「食事・排泄・入浴などの身体介護サービス」、「掃除・洗濯・買い物・調理といった生活援助サービス」などがあげられます。ご利用にあたっては、要介護（要支援）認定を受け、ケアマネジャーが作成するケアプランに基づいて、ご利用者ごとの状況や状態に合わせた訪問介護サービスを提供いたします。また、在宅医療・介護の多職種と連携し、ヘルパーが訪問する事で、体調の変化や生活上の困りごとなどの早期発見につながり、安心して在宅生活を送るサポートを行っています。

知っておきたいポイントは、「できること・できないこと」が明確に定められている点です。例えば、ご利用者本人の生活に直接関わる支援が中心で、ご家族の家事は対象外となります。困ったときは一人で抱え込まず、早めにご相談されることが在宅生活を続けるコツです。長瀬ケアセンター訪問介護事業所は、ご利用者一人一人が「自分で作る、自分の暮らし」をスローガンとし、経験豊富な11名のヘルパーが日々、在宅で過ごされている高齢者の暮らしを支えています。



## 地域包括支援センターって？ 4



### 多世代交流による地域づくりに向けて 久里浜地域包括支援センター

横須賀市では現在、高齢者などが住み慣れた地域で生きがいをもって暮らし続けられるよう、人と人・人と場所のつながりを通じた支え合う地域づくりを進めています。高齢者のひとり暮らしや高齢夫婦のみの世帯が増加する中で、近隣同士の助け合いが必要になったり、従来のホームヘルパーやデイサービスだけでなく、住民同士、あるいは町内会活動などによる様々な支援体制を築いていくことが、今まで以上に必要になってきます。

この取り組みを進めるため、地域づくりをお手伝いする「生活支援コーディネーター（以下SC）」が市内各地域包括支援センター（一か所を除く）に配置されています。SCは地域の集まりや町内会、商店街、学校、民間企業などを訪問して情

報収集を行い、そこで発見した困りごと（地域課題）について、解決への糸口を住民と一緒に考え、社会資源をつなぐ活動を行っています。

支え合いの地域づくりのキーワードは「多世代交流」です。地域活動のお悩み、こんな活動を「やりたい・やってみたい」という想いをお持ちでしたら、お気軽にSCへご相談下さい。



# かながわ感動介護大賞「優秀賞」を受賞いたしました

衣笠ホーム 生活相談課

この度、衣笠ホーム家族会会長の山本洋三様と衣笠ホームが「かながわ感動介護大賞」優秀賞を受賞いたしました。

かながわ感動介護大賞は、介護の仕事の魅力を発信する神奈川県での取り組みです。たいへん光栄な賞をいただき、衣笠ホームをご支援いただいているすべての方々に心より感謝いたします。



## 「大切な妻を支えてくれたみんなへ感謝をこめて」山本 洋三様

感動介護を行った事業所 社会福祉法人日本医療伝道会 特別養護老人ホーム 衣笠ホーム

働き者で誰からも頼りにされた妻が認知症になり、デイサービスやショートステイを利用しながら8年間自宅で介護をした。妻の症状が進行する中、毎日の暮らしが幸せである事を二人で感謝しあった日々。

しかし、妻の体調が一変、入院し更に症状が進行、妻は衣笠ホームに入居した。妻は私を待っていて、毎日二人で散歩を楽しんだ。職員さん達は妻と私に笑顔で微笑み「お二人で幸せですね」「どうぞゆっくり」と声をかけてくれた。妻はその言葉ににっこり、「ありがとう」と応えていた。

正直、妻の入居に葛藤があった。「妻と最後まで一緒にいたい」「大切な妻を家で見てあげたい」「でも、これからは専門家をお願いするしかない」様々な想いがあったが、みんなの優しさの中で妻が笑顔でいてくれることから入居を決断した事は間違いでなかったと確信した。

妻の体調が悪化し、最期の看取りをホームにお願いする事を決めた。「3カ月後に60回目の結婚記念日を迎えるんだよ」と職員さんに話した翌日、面会に行った私と二人の息子。なんと職員さん達が結婚記念日をお祝いしてくれたのだ。部屋を飾り付け、用意してくれた花束と共に家族の為に頑張ってくれた妻への感謝を伝えた。

次の日、妻は天国へと旅立った。愛いっぱいのあるホームで、妻にふさわしい最期の瞬間を過ごし旅立つことができたことに感謝し、衣笠ホームのみんなに心からの「ありがとう」を伝えたい。

## 衣笠ホーム永眠者記念会に寄せて

衣笠ホーム ホーム長 柳井 芳明

2025年11月20日、衣笠ホームでは、この地で安息された皆様を偲ぶ「永眠者記念会」を執り行ないました。

ご遺族の方々、入居者さん、職員が一堂に会し、故人の皆様との思い出を分かち合う心静かな一時となりました。

大野チャプレンにより讃美歌、聖書の朗読と心に染み入る説教を拝聴し、改めて命の尊さと、今、生きる私たちが継承する絆の重みを感じました。

衣笠ホームで過ごされた日々、故人の皆様が残して頂いた笑顔や温かい言葉の数々は、私たちにとってかけがえのない宝物です。

礼拝後は、交流スペースオリーブで茶話会が行われ、ご遺族と職員が語り合う和やかなひと時も設けられました。

私たちは、永眠された方々の思いを胸に刻み、これからもキリスト教精神に基づいて、初代 宮地ホーム長の「何かを

決める時は全てが利用者の都合の良い方を選びなさい」の言葉を心に、努めてまいります。

永眠者の皆様が安らかにお過ごしになれますよう、心よりお祈り申し上げます。

ご参列されたご遺族の皆様には、心より感謝申し上げます。



### ⑮復興後の償いの業への取り組み

1963年6月、復興第一期・二期工事の落成感謝式が執り行われ、4階には病院火災で亡くなられた16名の罹災者を記念する復興記念室が設置されました。天井には16枚の羽目板がはめられ、講壇正面にはクリスチャン政治家の北村徳太郎氏揮毫の「一粒の麦地に落ちて死なずば唯一つにてあらん、死なば多くの果を結ぶべし」「古きは既に過ぎ去り視よ新しくなりたり」の聖句がはめられました。また青山学院中学高等部初代校長古田十郎牧師作成の薔薇と百合のスタンドグラスが据え付けられ16の赤い魂が記念としてあり、現復興記念室にも飾られています。

1967年3月、病院火災で亡くなられた8名の嬰兒を記念するため、病院に乳幼児センターが設置されました。初代センター長として江口信道小児科医師があたり、助産師・保健師・栄養士と協力し乳幼児の健康相談と予防注射・検診を外来とは独立して行ってきました。1971年9月には構内にプレハブ棟の専用施設ができ、院内感染のリスクがなく安全な相談業務ができることとなりました。その後成人の健康相談にも対応するため名称を保健センターと改称し、現在の健康管理センターとして至っております。

1968年10月、機関紙「衣笠」が創刊されました。病院火災後復興後援会が組織され、支援していただいている方々へ復興状況や寄付金報告ををするため「衣笠病院復興ニュース」随時3号まで発行されていました。「衣笠」

の創刊にあたって当時の末包敏夫理事長は「病院の支援者・協力者を得られるとともにこれからの針路を追求し、姿勢を正すことに役立てば真に幸いである。」と創刊号で語っております。編集責任は初代事務長であった千葉愛爾久里浜教会牧師に150号までの長きわたって担っていただきました。当時は月刊誌であったので原稿依頼・献金報告・校正・発送などその苦労は計り知れないものであったと思います。

1970年7月、衣笠ホームが開設されました。理事会は病院火災10周年の記念事業として特別養護老人ホームの建設を決議し、後援会も復興後援会から衣笠ホーム建設後援会として樋口宅三郎氏が会長を引き受けて頂き多くの募金が建築に捧げられました。その結果、衣笠ホーム50床が病院構内に設けられました。初代ホーム長として宮地利彦前病院長が就任し、ドイツの老人施設で研修中の高橋和子氏を寮母長として迎え、全国からクリスチャンスタッフが集まり衣笠ホームの基礎を築いてくれました。

以上復興後の歩みを紹介させていただきました。追記として1969年11月に衣笠ホーム起工定礎式に末包敏夫理事長がマタイ福音書25章40節「私の兄弟であるこれらの最も小さい者一人にしたことは、すなわち、私にしたのである」との聖句が衣笠ホーム定礎の言葉とされました。この聖句が法人の聖句として受けつがれています。

(日本医療伝道会監事 阿部 誠)

## 今月の聖句

日本同盟基督教団  
横須賀中央教会 牧師  
荒井 隆則

### 「父のみもとに通じる道」

イエスは彼に言われた。

「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」(新改訳)  
(ヨハネの福音書14章6節)

一休禅師の作といわれている歌に「分け登る麓の道は多けれど 同じ高嶺の月を見るかな」というものがあります。宗教の入口は違っていても、最後には同じ場所に到達するというを説いていて、日本人一般の宗教観を言い当てているような歌です。

私たちの人生はよく道にたとえられます。快調に走れる時もあれば、喘ぎ喘ぎ登らなければならない山道もあります。時に右へ行くべきか左に行くべきか決断が求められ、大丈夫と思って進んだ道が行き止まりということも起こります。私

たちの人生はかつて通ったことのない道を歩いているようなものです。何が待ち構えているかわかりません。ですから人生にはナビが必要です。行き先をさし示してくれる確かなものが必要です。その確かなナビを私たちはどこに見出すことができるのでしょうか。

長い歴史の中で多くの人が神のことばである聖書に確かな道を見出してきました。それはイエス・キリストのことばに権威を認めてです。キリストは道を示したのではありません。ご自身が道であり、真理であり、いのちであると語り、私たちを父のみもと(私たちが本来帰るべき最も安心できる場所)に導いてくださいます。聖書を読んでみませんか。必ず新しい発見がありますから。



# 阿部志郎先生 百寿おめでとうございます!!

衣笠病院 名誉病院長 南 信明

阿部志郎先生が2月1日100歳を迎えられました。おめでとうございます。阿部先生は1984年7月衣笠病院グループの第3代理事長に就任されました。私が初めて阿部先生にお会いしたのは今から40年前、田浦共済病院の内科部長として大学から派遣されていた時です。

ある日、阿部先生が田浦共済病院に訪ねてこられ、生命保険会社からの基金で地域での社会福祉に関する研究をするので参加してくれないかとのお話でした。当時の私は恥ずかしながら社会福祉の何たるかを全く知りませんでしたが、参加させて頂くことになりました。そのご縁もあり1989年1月から衣笠病院で働かせて頂くことになり、現在に至っております。

本年1月19日、阿部先生が当院を訪れた折に2階のチャペルにおいて、古屋修身理事長の発案で職員とともにささやかながら100歳のお誕生の祝会を開催させて頂きました。阿部先生は元気よくケーキの蝋燭の火を吹き消されました。

この時、阿部先生が100年を振り返り、まずお話しされたのは1960年1月6日の衣笠病院火災についてであり、新生児8名を含む16名の尊い命が失われたことへの深い悲しみについてでした。出火当時、阿部先生も現場に駆けつけておられました。

阿部先生は横須賀キリスト教社会館の館長として社会福祉における多くの実践をしてこられました。

これからも衣笠病院グループのためにご指導をお願い致します。



## 証言者のつらなり ～ 衣笠病院火災から66年を迎えて ～

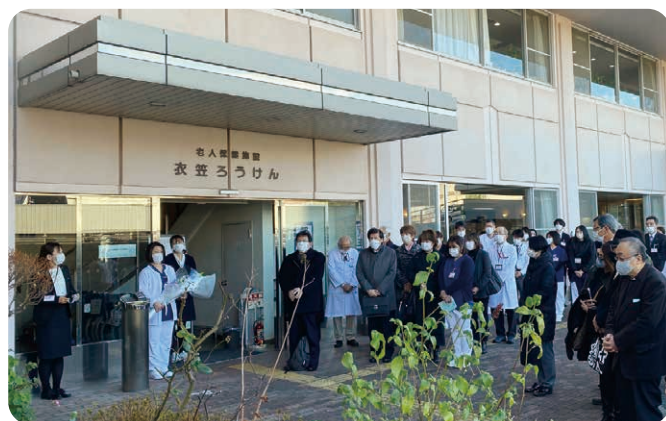
チャプレン室長 大野 高志

1960年1月6日夜の衣笠病院火災では、新生児8名を含む16名のいのちが失われました。今年も6日の朝、鎮魂の祈りとともに追悼記念礼拝を捧げ、殉職した青嶋ミチヨ看護師の顕彰碑に花を手向けました。

記念礼拝では、私がヨハネ福音書12:20以下から『証言者のつらなり』と題して説教をしました。病院復興に全力を傾注した末包(すえかね)敏夫元理事長には忘れられないことがあったそうです。ある年の復活祭、当時の成美学園(現横浜英和学院)の生徒さんたちが学校でイースター・エッグを販売し、その利益を病院のために献金してくださったことでした。病院の「復活」は、実にこの色とりどりの卵のように、たくさんの支えの連鎖によってなされたのだと、末包理事長は心に刻んだのでしょうか。

福音書のこの箇所では、あるギリシア人たちが、イエスと出会うとして背景の異なる2人を仲介したことが記されています。彼らはその手引きのうちに、イエスの死と復活を見たの

でしょう。私たちにも色とりどりの証言が与えられてきました。それに耳を傾け、あの日の悲劇を直視することで、かえってそこにあった神の慰めと復活の大きさを次世代に語り伝える者でありたいと思います。



# フレイル予防のための栄養

衣笠病院 管理栄養士 西村 早瑛

今回は前回498号のフレイル予防の「栄養・運動・社会参加」の3本柱のうちの栄養についてお話しします。

フレイル予防には筋肉の維持が重要ですが、筋肉は常に分解され、作り直されています。そのため、筋肉をつくる材料となるたんぱく質をしっかりとることが必要です。たんぱく質は肉、魚、牛乳・乳製品、卵、大豆製品などに多く含まれます。そして、たんぱく質は1度にたくさん食べ過ぎても余分な分は利用されません。毎食肉、魚、牛乳・乳製品、卵、大豆製品のいずれかは食べるようにして1日3食同じくらいの量のたんぱく質をとるようにしましょう。特に朝食のたんぱく質は欠かさないように気をつけましょう。寝ている間はたんぱく質の供給がなく、朝食のたんぱく質が不足すると昼食まで筋肉の



分解が続いてしまいます。朝食がトーストという方は牛乳を追加したり、ごはん味噌汁という方はごはんに納豆や卵を追加したりして手軽に補う方法もおすすめです。



また、たんぱく質がしっかりとれていてもエネルギーが不足すると体は筋肉を分解してエネルギーを作ろうとするため、筋肉の分解が進んでしまいます。痩せないようにエネルギー源となるごはんなどの主食も欠かさずに食べてバランスのよい食事を心がけましょう。

管理栄養士が  
おすすめする

春の食材で  
おいしくフレイル予防

## 牛乳茶碗蒸し

衣笠病院 管理栄養士 小島 美香

春に旬を迎える菜の花を使って、電子レンジで簡単に作れる「牛乳茶碗蒸し」で季節を感じながら、たんぱく質を補給されてはいかがでしょうか。

### 材料 牛乳茶碗蒸し (2人分)

卵…1個  
牛乳…3/4カップ (150ml)  
めんつゆ (3倍濃縮) …小さじ2  
あさり水煮缶…40g  
菜の花・生…20g

### 作り方

- ①菜の花は洗って耐熱容器にいれ、蓋をして電子レンジ (600W) 1分30秒加熱し、水にとる。水気をしぼり、1cm程度に切る。
- ②あさり水煮缶は缶から出し、汁気をきっておく。
- ③ボウルに卵を割り入れて、よく溶きほぐし、牛乳・めんつゆを加えて混ぜ、卵液を作る。



- ④耐熱容器に①の菜の花、②のあさり水煮、③の卵液を合わせて入れる。
- ⑤ラップをかけ、電子レンジ (600W) で3分加熱しそのまま5分蒸らす。(電子レンジにより加熱時間は異なります。様子を見て時間の調節をしてください)

## 第4回 介護用品・福祉用具 どうやって利用？

今回は「床ずれ防止用具」についてリップル 福祉用具専門相談員 柿澤 億実（カキサワ イクミ）さんにお話を伺いました。（ケアマネジャー：渡邊 美智子）

床ずれ（褥瘡）とは、「寝たきりなどによって、体重で圧迫されている場所の血流が悪くなったり滞ることで、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができてしまうことです（引用：日本褥瘡学会ホームページ）」。「ご自身で寝返りができない寝たきりの方は特に床ずれになりやすいため、床ずれ防止用具を提供することが大事です。」

床ずれ防止用具は介護保険福祉用具貸与品目の一つで、様々な機能や性能を持った商品があるので、要介護者の方の状態や介護環境等を踏まえて、どの商品を選ぶかが大切です。また、見落としがちになりますが、ベッド上だけではなく、車いすの座位姿勢でも床ずれ発生のリスクはありますので、どの福祉用具を導入すべきか迷った際は、ケアマネジャーや担当の福祉用具専門相談員にご相談ください。



ネクサスIb エアーマット  
引式ファンモーターが皮膚局所の温度・湿度の上昇を抑えるマットレス。



ウェブリーマットレス  
リバーシブル構造で快適な寝姿勢を保つことができる体圧分散マットレス。



2025  
Christmas  
Memories

横須賀学院生徒さんによる  
ハンドベル演奏を鑑賞

長瀬デイサービスと  
ろうけんのクリスマス会

職員による病棟の  
キャロリング



## 編集後記

冬の寒さが和らぎつつあり、春を感じられるよい季節になりました。

早いことでもう3月になり、卒業シーズン・次年度に向けた準備など、年度末でなにかと慌ただしくなる時期ですね。私個人としては特別にかイベントがある時期ではありませんが、2025年度を

振り返るいい機会として、次年度に向けての目標を立てて衣笠病院グループの一員として成長できるようにしていきたいです。また、間もなく4月となるため、新年度に向けて準備を進めている方も多いかと思います。新生活にワクワクしている方・慣れない環境の変化などで不安を感じている方、様々いるかと思いますが、もうすぐ新しい生活を迎える皆様を心より応援しております。（A.N）

## 「衣笠」No.499

2026年3月1日発行

発行人 古屋 修身

発行 社会福祉法人

日本医療伝道会衣笠病院グループ

〒238-8588 横須賀市小矢部 2-23-1

TEL. 046-852-1182（代表）

郵便振替口座 00220-2-13963

編集 社会福祉法人日本医療伝道会

広報委員会

印刷 (株)ポートサイド印刷

